

東京23区内の両生類生息状況

川上洋一

東京23区内に生息している生物のうちで、両生類は最も減少の著しいグループの一つである。都が公表した「レッドデータブック東京2013」によるカテゴリーでも、ニホンアマガエル、アズマヒキガエルを除く在来種が絶滅危惧IA類となっており、とくに近年はアカハライモリの生息が確認されていないという。



この原因には、生息環境である川沿いの湿地や水田の減少が影響していることは間違いない。これらは高度経済成長期以降、都内で最も急激に失われた環境である。なかでも水田は23区内で明治時代から継続的に耕作が続けられているのは、わずか数ヶ所に限られる。これらはいずれも市街地の中に孤立しており、周辺部でも水田を主な生息環境としている両生類は見られない。

23区内に残る水田（目黒区ケルネル田んぼ）

一方で、23区東部の「下町」と呼ばれる地域では、荒川、江戸川などの流域で、局地的にトウキョウダルマガエルやニホンアカガエルが見つかっている。こうした川の上流部には自然環境が比較的残されており、ここから供給された個体が、近年この地域で盛んになった自然環境が復元されたエリアに棲みついているとも考えられるだろう。

本講演では、23区内の両生類の生息環境の一端を紹介するとともに、東京の地形や市街地の発達の歴史との関係、また、今後この地域での保全活動を進めるために、こうした歴史を踏まえる必要性について考察したい。



江戸川流域に復元された自然環境（葛飾区）